

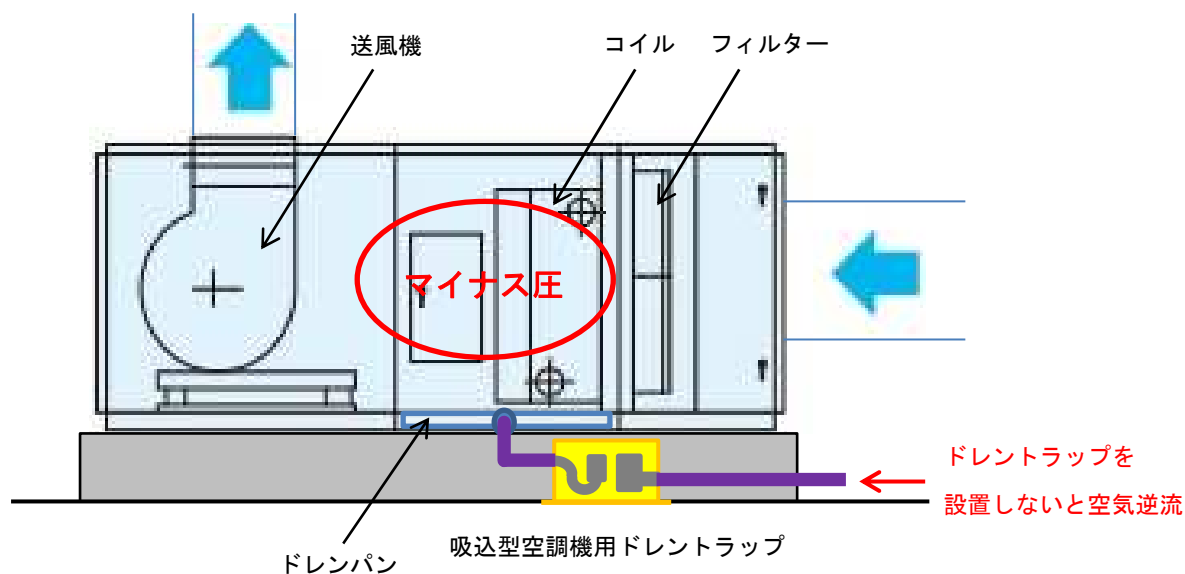
空調機用ドレントラップの選定について

空調機用ドレントラップの設置に際しては対象となる空調機の構造により吸込型と押込型を使い分ける必要があります。

1. 吸込型空調機

- ・空調機運転中は **ドレン排出口（コイル、ドレンパンのある場所）がマイナス圧** になるためドレン管から二次側の汚染空気を吸い込んでしまいます。
- ・ドレン管にドレントラップを設置して汚染空気や害虫の侵入を防止します。

※ドレントラップを設置しなかった場合、送風機能力の高い大型空調機ではドレン管から逆流してくる空気によって排水がスムーズに排出できずに漏水事故が発生する恐れがあります。



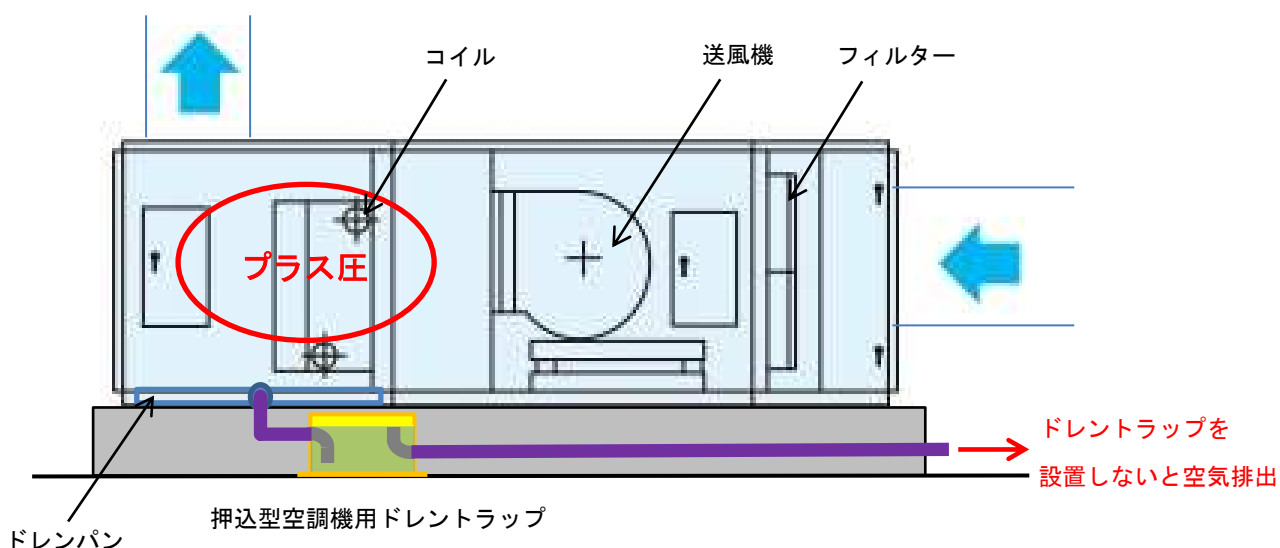
- ➡ A・トラップS型、SW型（エアハンなどの大型空調機）
C・トラップ（ファンコイル、小型パッケージエアコンなどの小型空調機）


注）設置時に必要な落差についてはカタログをご参照ください。

2. 押込型空調機

- ・空調機運転中 **ドレン排出口（コイル、ドレンパンのある場所）がプラス圧** になるためドレン管から調和空気を排出してしまいます。
- ・運転停止時にはドレン管を通して汚染空気の逆流や害虫の侵入が発生します。
- ・ドレン管にドレントラップを設置して調和空気のロスを防止し、汚染空気や害虫の侵入を防止します。

※ドレントラップを設置しなかった場合、送風機能力の高い大型空調機では排出する空気によりドレン管でつながっている他の機器の排水を阻害する恐れがあります。



 A・トラップP型、PW型

(注) A・トラップP型及びPW型はフロートボール式ではありません。
運転開始時及び封水の減水時に水を補給する必要があります。
標準品でプラス 1,450Pa 相当まで対応可能です。

- その他不明な点についてはお問い合わせ下さい。